

一〇五 正親町天皇

三〇

永祿 一二
元龜 三
天正 一四

- 同 八年宣教師フロエー京都に上る 二二二二五
- 同 十一年京都に永祿寺を建つ 二二二二八
- 同 年(イスパニヤ人フィリピン群島を取る) 二二三〇
- 同 年大村純忠福田港を開く 二二三一
- 元龜元年深江村を長崎と改む 二二三二
- 同 二年宣教師オルガンタン京都に上る 二二三三
- 天正元年足利將軍家亡ぶ 二二三四
- 同 年澤庵生る 二二三五
- 同 二年(ソテロ生る) 二二三六
- 同 四年京都の南蠻寺成る 二二三七
- 同 五年大村純忠宣教師に借金す 二二三八
- 同 七年宣教師ソリニヤン信長に謁す 二二三九
- 同 九年安土の南蠻寺成る 二二四〇
- 同 十年大村、有馬、大友三氏使をローマに送る 二二四一
- 同 年信長本能寺にて害せらる 二二四二
- 同 十一年(努兒哈赤滿洲に起る) 二二四三
- 同 十三年大村等の使者ローマに着す 二二四五
- 同 年秀吉京都の南蠻寺を破壊す 二二四六
- 同 十四年大村等の使者リスボンを發す 二二四七
- 同 年天皇位を後陽成天皇に譲り給ふ 二二四八

一〇六 後陽成天皇

二六

天正 五
文祿 四
慶長 一六

- 同 十五年大友宗麟卒す。秀吉耶蘇教を禁ず 二二四七
- 同 十八年大村等の使者長崎に歸着す 二二五〇
- 文祿元年秀吉朝鮮を征す 二二五二
- 同 年朱印船を出す 二二五三
- 同 年原田孫七郎マニラに使す 二二五四
- 同 二年正親町上皇崩御。原田喜右衛門マニラに使す 二二五五
- 同 年秀吉使を臺灣に送る 二二五六
- 同 三年魚屋助左衛門ルソンより歸る 二二五七
- 慶長元年イスパニヤ船土佐に漂着す 二二五八
- 同 二年秀吉再び朝鮮に兵を出す 二二五九
- 同 年和蘭船始めて平戸に来る 二二六〇
- 同 三年秀吉薨す 二二六一
- 同 五年蘭船リーフア號豊後に漂着す 二二六二
- 同 年關原の戦あり。(朱舜水生る) 二二六三
- 同 六年淺野長重下野眞岡の城主となす 二二六四
- 同 七年狩野探幽生る 二二六五
- 同 八年徳川家康將軍に任ぜらる 二二六六
- 同 九年徳川家光(竹千代)生る 二二六七
- 同 十年徳川秀忠將軍に任ぜらる 二二六八
- 同 十一年徳川忠長(國千代)生る 二二六九

同 年宣教師ソテロ長崎附近に上陸す	二二六九
同 十四年島津家久琉球を征す	二二七〇
同 年蘭人に通商を許す。ビペロ上總に漂着す	二二七一
同 十五年淺野長政卒す。田中勝助等メキシコに至る	
同 十六年天皇位を後水尾天皇に譲り給ふ	
同 年田中勝助等メキシコより歸る。加藤清正卒す	二二七二
同 年淺野長重常陸眞壁の城主となる	二二七三
同 十七年狩野探幽家康に謁す	
同 十八年英人に通商を許す。支倉常長ローマに向ふ	二二七四
同 年耶蘇教の禁令出づ。淺野幸長卒す	
同 十九年宣教師及び耶蘇信者を海外に逐ふ	
同 年松倉重政島原の領主となる。大阪冬の役あり	二二七五
同 元和元年支倉常長イスパニヤ王に謁す。大阪夏の役あり	二二七六
同 年支倉常長ローマに着す。	二二七七
同 二年四月十七日徳川家康薨す	二二七八
同 年耶蘇教の禁令出づ	
同 三年後陽成上皇崩御。我が國に密航せし宣教師二名殺さる	
同 四年河村瑞軒生る	

一〇七

後水尾天皇

一九

慶長 元和 寛永

三 九 六

同 五年淺野長政廣島に、徳川頼宣紀伊に對せらる。常陸殺さる。	二二七九
同 六年和子女御となる。支倉常長歸朝す。三浦按針歿す。淺野長重常陸笠岡に封ぜらる	二二八〇
同 七年山田長政書を土井利勝に呈す。木下順庵生る	二二八一
同 八年英人日本貿易を斷念す。ソテロ再び日本に來る。支倉常長歿す。山鹿素行生る	二二八二
同 九年東光將軍に任ぜらる。興子内親王御誕生。寛永元年和子中宮となる。福島正則卒す。ソテロ殺さる。蘭人臺灣に據る。鄭成功生る	二二八三
同 二年臺灣の蘭人我が商船の貨物を奪ふ	二二八四
同 三年高仁親王御誕生。秀忠、家光上洛す。天皇二條城に行幸し給ふ。濱田彌兵衛臺灣の蘭人に貨物を没收せらる。忠長從二位權大納言となる。山田長政軍艦の圖を淺間神社に納む	二二八五
同 五年仙洞御所の造替に着手す。高仁親王薨去。濱田彌兵衛臺灣の蘭人を懲らす。徳川光圀生る	二二八六
同 六年澤庵等流さる。春日局天顏を拜す。鄭芝龍支那に渡る。踏繪を行はしむ	二二八七

一〇八	明正天皇 (女帝)	一五	寬永	一四	同 年天皇位を明正天皇に譲り給ふ	二二九〇
					同 七年松倉重政病死し、子勝家繼ぐ	
					同 年禁書令出づ。林道春弘文院を處つ。	
					同 九年秀忠薨す。加藤忠廣の領地没收せらる。徳川忠長の領地没收せらる。淺野長重卒す。澤庵教	
					同 十年幕府に許なき船の海外渡航を禁ず。山田長政殺さる。加藤光正卒す。徳川忠長自殺す	
					同 十一年譜代大名の妻子を江戸に置かしむ。長崎に出島を築く	
					同 十二年参勤交代の制を定む	
					同 十三年日本船の海外渡航を禁ず。伊達政宗卒す	
					同 年(太皇太后を清と號す)	
					同 十四年十月島原に亂起る。板倉重昌島原に向ふ。	
					同 十五年正月元日重昌戦死す。四月四日信綱島原に着す。二月島原の亂平ぐ。五月大船の製造を禁ず	
					同 十六年七月支那、和蘭以外の貿易を禁ず(鎖國)	
					同 十七年契沖生る	
					同 十八年平戸の和蘭人を長崎出島に移す。家綱生る。	

一〇九	後光明天皇	二二	正保	四四	吉良義央生る	二二三〇一
					同 十九年譜代大名の交代期を六月に改む	二二三〇二
					同 二十年春日局歿す。天皇位を後光明天皇に譲り給ふ	二二三〇三
					正保元年(清の世祖北京を首府とす)	二二三〇四
					同 二年澤庵歿す。淺野長直赤穂の領主となる	二二三〇五
					同 年鄭芝龍援兵を請ふ。其の妻清國に渡る	
					同 三年援兵を拒絶す。綱吉生る。柳生宗矩歿す。	
					明王援兵を求めしが之を拒絶す。(鄭芝龍降り、其の妻自殺す)	
					慶安三年大石良勝歿す	二二三〇六
					同 四年將軍家光薨す。由井正雪、丸橋忠綱の亂あり。家綱將軍に任ぜらる。保科正之將軍の輔佐役となる。竹本義太夫生る。	二二三一〇
					承應元年淺野長直、山鹿素行を聘す	二二三一〇
					同 二年家綱右大臣に任ぜらる。加藤忠廣卒す。近松門左衛門生る	二二三一〇
					同 三年天皇崩御。後西院天皇位に即ぎ給ふ	二二三一〇
					明曆三年正月江戸に大火あり(振袖火事)。二月新井	二二三一〇

一〇 後西院天皇

明曆 萬治 寛文

三三三

白石生る。林道春歿す。徳川光圀大日本史の編纂を始む。
 萬治元年松平直政、後鳥羽上皇の火葬場に社を建つ。
 伊勢内宮焼く。細井知愼生る。
 同 二年大石雄生る。朱舜水歸化す。
 同 三年初代市川團十郎生る。山鹿素行江戸に歸る。
 寛文元年皇居に火災あり。徳川頼房歿す。徳川綱吉館林に對せらる。(鄭芝龍殺さる。明亡ぶ。)
 同 二年松平信綱卒す。京都に地震あり。(鄭成功歿す。)
 同 三年天皇位を靈元天皇に譲り給ふ。林春齋弘文院學士の號を受く。

同 五年光圀朱舜水を聘す。
 同 六年酒井忠清大老となる。山鹿素行赤穂に配せらる。
 同 七年淺野長矩生る。
 同 八年保科正之家訓を作る。荷田春滿生る。
 同 九年正之職を辭す。
 同 十年淺野長廣(大學)生る。前田綱紀、探幽に櫻井驛の繪を書ひしむ。

二三一七
二三一八
二三一九
二三二〇
二三二一
二三二二
二三二三
二三二五
二三二六
二三二七
二三二八
二三二九
二三三〇

一一 靈元天皇

寛文 延寶 天和 貞享

九 八 三 四

同十二年光圀影考館を其の上屋敷に開く。淺野長直卒す。保科正之卒す。角屋七郎兵衛安南に歿す。
 延寶元年大石良昭歿す。
 同 二年狩野探幽歿す。
 同 三年土屋利直卒す。淺野長友卒す。山鹿素行江戸に歸る。
 同 五年白石、土屋家より逐はる。大石良欽歿す。
 同 六年徳川綱重歿す。白石の母歿す。
 同 七年綱吉の子徳松生る。曾根吉正順徳上皇の火葬場を修理す。
 同 八年綱吉、家綱の養子となる。家綱歿す。綱吉將軍となる。後水尾上皇崩御。酒井忠清職を免ぜらる。
 天和元年堀田正俊大老となる。(鄭經歿す。)
 同 二年綱吉讀書始の式を擧ぐ。朱舜水歿す。木下順庵召さる。山崎闇齋歿す。白石堀田正俊に仕ふ。護國寺建立。安宅丸を破壊す。
 同 三年立太子禮舉行。徳松歿す。(鄭克爽降る。)
 貞享元年堀田正俊、稻葉正休に殺さる。徳川吉宗生る。

二三三五
二三三七
二三三八
二三三九
二三四〇
二三四一
二三四二
二三四三
二三四四

同 二年後西院上皇崩御。山鹿素行歿す。竹木義太夫操芝居に出づ。	二三四五	
同 三年僧隆光知足院住職となる。白石、順慶の門人となる。	二三四六	
同 四年生類憐の令を發す。天皇位を東山天皇に譲り給ふ。	二三四七	
同 年大嘗祭再興。僧亮賢歿す。		
元祿元年柳澤保明側用人となる。知足院を神田に移す。	二三四八	
同 三年綱吉皇室の御料を増す。聖堂を湯島に移す。徳川光圀隱居す。	二三五〇	
同 四年林鳳岡に髪を蓄へしむ。光圀西山に移る。		
白石堀田家を去る。岡島石梁加賀に仕ふ。	二三五一	
同 五年光圀、楠木正成の碑を澁川に建つ。	二三五二	
同 六年光圀、保明に犬の皮を贈る。白石、徳川綱豊に仕ふ。	二三五三	
同 七年柳澤保明老中格となる。	二三五四	
同 八年大久保に犬小屋を設く。貨幣改鑄。知足院を護持院と改む。隆光を大僧正とす。中野に犬小屋を設く。	二三五五	

一一三 東山天皇

元祿 一六
寶永 六

同 九年源六(百宗)名を頼方と改む。明正上皇崩御。	二三五六	
同 十年頼方鯖江の城主となる。寶篋真淵生る。	二三五七	
同 十一年木下順慶歿す。青木文瀾(昆陽)生る。	二三五八	
同 十三年河村端軒歿す。徳川光圀薨す。	二三六〇	
同 十四年備前沖歿す。淺野長矩、吉良義央に傷く。長矩に死を賜ひ。領地を没收す。保明名を吉保と改む。	二三六一	
同 十五年大石良雄等吉良義央を殺す。永井直敬赤穂城主となる。	二三六二	
同 十六年大石良雄等自殺せしめらる。吉良義周信州に流さる。山陵の修理を行ふ。聖堂焼く。	二三六三	
寶永元年聖堂を再建す。徳川綱豊、綱吉の養子となり名を家宣と改む。初代市川團十郎歿す。	二三六四	
同 二年綱吉右大臣となる。桂昌院薨す。徳川頼方紀伊家を繼ぎ、名を吉宗と改む。	二三六五	
同 三年義周死す。森長直赤穂城主となる。	二三六六	
同 六年綱吉薨す。生類憐の令を廢す。家宣將軍となる。	二三六九	
同 年天皇位を中御門天皇に譲り給ふ。		
同 年東山上皇崩御。大石吉千代病死す。		

一一三

中御門天皇

二七

寶永 一
正徳 五
享保 二〇

同 七年皇弟秀宮に一家を立てしめ給ふ(閑院宮)。安房に於て領地を淺野長廣(大學)に與ふ。正徳元年白石從五位下筑後守となる。朝鮮使者の待遇法を改む。徳川家重生る。

同 二年大岡忠相山田奉行となる。萩原重秀免職となる。家宣薨す。竹内式部生る。

同 三年貨幣を改鑄す。家繼將軍となる。大石良恭廣島の淺野家に仕ふ。露人千島に来る。

同 四年柳澤吉保卒す。竹本義太夫歿す。

同 五年長崎の貿易を制限す。八十宮降嫁の勅許を得。水戸家編纂の歴史を大日本史と名づく。國姓爺合戦を操芝居に演ず。

享保元年家繼薨す。吉樂將軍となる。白石辭職。柳澤吉里大和郡山に移さる。忠相普請奉行となる。

同 二年忠相江戸町奉行となる。轉國寺を護持院と改め、觀音堂を護國寺と改む。

同 四年田沼意次生る。

同 五年水戸家大日本史二百五十卷を幕府に獻ず。禁書の令を弛む。

同 六年目安箱を設く。

二二七〇
二三七一
二三七二
二三七三
二三七四
二三七五
二三七六
二三七七
二三七九
二三八〇
二三八一

同 七年上米を諸大名に課す。養生所を設く	二二八二		
同 八年林鳳岡退隱す。前野良澤生る	二二八三		
同 九年近松門左衛門歿す。僧隆光歿す	二二八四		
同 十年新井白石卒す。山縣大貳生る	二二八五		
同 十一年八十宮、吉子内親王と名乗り給ふ	二二八六		
同 十二年甘蔗栽培を試む	二二八七		
同 十五年宗武に田安邸を與ふ。本居宣長生る	二二九〇		
同 十六年參勤交代法復舊す	二二九一		
同 十七年關西地方に蝗の害あり。靈元法皇崩御。吉子内親王出家し給ふ	二二九二		
同 十八年賀茂眞淵荷田春滿の門人となる。杉田玄白生る	二二九三		
同 十九年室鳩巢歿す	二二九四		
同 二十年天皇位を櫻町天皇に譲り給ふ	二二九五		
同 年細井和愷歿す。田沼意次家を繼ぐ	二三九六		
元文元年荷田春滿、伊藤東涯歿す。忠相寺社奉行となる	二三九七		
同 二年中御門上皇崩御。飛鳥山に櫻を移す。家治生る。眞淵濱松に歸る	二三九八		
同 三年眞淵江戸に出づ。林子平江戸に生る	二三九八		

一一四	櫻町天皇	元文 寛保	四三	同 四年藤原純成金華山及び安房近海に来る 同 五年宗尹に一掃邸を興ふ 寛保二年公事方定書成る。山縣大貳京都に上る 延享元年青木文藏長崎に行く 同 二年伊能忠敬生る。吉宗退隱。家重將軍となる 同 三年堀保己一生る。眞淵、田安家に仕ふ 同 四年寺坂吉右衛門死す。高山彦九郎(正之)生る 同 年天皇位を桃園天皇に譲り給ふ	二三九九 二四〇〇 二四〇二 二四〇四 二四〇五 二四〇六 二四〇七
一一三		元文 寛保	四五	寛延元年大岡忠相大名に取立てらる 同 二年蜀山人生る 同 三年櫻町上皇崩御 寶曆元年徳川吉宗薨す。大岡忠相奉す 同 二年本居宣長京都に上る 同 五年最上徳内生る 同 六年竹内式部所司代の取調を受く。竹田出雲殺す。山縣大貳江戸に下る 同 七年本居宣長小兒科醫を松坂に開業す。竹内式部奉公心得書を作る。大槻玄澤生る 同 八年田沼意次大名に列せらる。松平定信生る。 稻村三伯生る。吉子内親王薨去	二四〇八 二四〇九 二四一〇 二四一一 二四一二 二四一五 二四一六 二四一七 二四一八
一一五	桃園天皇	寛延 寶曆	三二		

一一六	後櫻町天皇 (女帝)	寶曆 明和	七一	同 九年竹内式部追放せらる。徳川重好に清水邸を興ふ 同 十年眞淵田安家を辭す。大貳藝を閉く。家重退隱して家治將軍となる 同 十一年宣長、眞淵の門人となる。家重薨す 同 十二年忠敬伊能家を繼ぐ。水野忠任唐津城主となる 同 年天皇崩御。後櫻町天皇位に即き給ふ	二四一九 二四二〇 二四二一 二四二二
九		寶曆 明和	七一	明和元年高山彦九郎京都に上る。高橋東圃生る 同 四年田沼意次側用人となる。瀧澤馬琴生る 同 年山縣大貳、藤井右門殺され、竹内式部八丈島に流さるる途中病死す 同 五年蒲生君平生る 同 六年堀保己一。眞淵の門に入る。眞淵歿す。前野良澤、青木文藏の門人となる。文藏歿す 同 七年最上徳内煙草屋に使はる 同 年天皇位を後桃園天皇に譲り給ふ	二四二四 二四二七 二四二八 二四二九 二四三〇
				同 八年前野良澤等解剖書の翻譯を始め。田安宗武薨す。近藤重頼生る	二四三一

一一七

後桃園天皇

一〇

明和
安永

八一

安永元年田沼意次老中となる。江戸に大火あり	二四三二
同 二年徳川家齊生る	二四三三
同 三年解體新書を出版す	二四三四
同 四年十返舎一九生る。定信松平家の養子となる	二四三五
同 五年平田篤胤生る	二四三六
同 七年伊豆大島に噴火あり。露人松前家に貿易を請ふ	二四三八
同 八年櫻島噴火す。天皇崩御。光格天皇位に即き給ふ	二四三九
同 九年君平鈴木石橋の門人となる。頼山陽、岡宮林蔵生る	二四四〇
天明元年家齊家治の養子となる。山陽父と廣島に移る	二四四一
同 二年伊勢の幸大夫等離船す	二四四二
同 三年保己一檢校となる。幸大夫等カムチャツカ附近の島に漂着す。淺間山噴火す。田沼意知若年寄となる。諸國飢饉。松平定信家を繼ぐ。蘭學階梯出版せらる。伊能忠敬帯刀を許さる	二四四三
同 四年佐野政言田沼意知を傷く	二四四四
同 五年山口銀五郎等蝦夷地を視察す	二四四五

同 六年大石逸平榊太を視察す。三國通覽圖説出版せらる。最上徳内得撫島に渡る	二四四六
同年田沼意次退けらる。大槻玄澤仙臺藩主の侍醫となる	
同年家治薨す	
同 七年聖堂焼く。家齊將軍となる。打壞し起る。松平定信老中となる	二四四七
同 八年定信願文を歡喜天に納む。柴野栗山用ひらる。京都に大火あり。皇居の造營を定信に命ず。定信補佐役に任ぜらる。定信上洛す。儉約令を出す。田沼意次死す。山田長政奉納の額焼く	二四四八
寛政元年儉約令出づ。岡田寒泉用ひらる。	二四四九
同 年天皇御父典仁親王に尊號を上らんとし給ふ	
同 年運上所を榊太太泊等に置く	
同 二年備荒貯米を命ず。皇居造營成る	二四五〇
同 三年海國兵談出版せらる。尾藤二洲用ひらる。七分金の制を定む	二四五一
同 四年忠敬三人扶持を興へらる。林子平禁錮せらる。露人ラツクスマン來る。最上徳内榊太を視察す。再び尊號事件起る	二四五二
同 五年中山愛親等江戸に下る。定信江戸近海を視	

二八 光格天皇

三九

安永 天明 寛政 享和 文化
一 八 二 三 四

- 察す。林子平、高山彦九郎歿す。和學講義所を處つ。定信辭職す。渡邊華山生る。ラツクスマン歸る。衛林家を繼ぐ。幸太夫將軍に謁す 二四五三
- 同 六年岡田寒泉常陸の代官となる。典仁親王薨じ給ふ。備前令出づ。忠敬家を子景敬に譲る 二四五四
- 同 七年萬胤江戸に出づ。忠敬江戸に出て高橋東四郎の門に入る。津太夫等難船す。露人得撫島に據る 二四五五
- 同 八年岡宮林藏普請役履となる。津太夫等アレウト島に漂着。古賀精里用ひらる。稻村三伯ハルマ和解を出版す 二四五六
- 同 九年忠敬蝦夷地の測量を幕府に請ふ。靈堂を幕府の學校とす。山陽江戸に出づ 二四五七
- 同 十年古事記傳成る。最上徳内蝦夷地に渡る。山陽廣島に歸る。近藤重藏擇捉島に標柱を建つ。徳内江戸に歸る。高島秋帆生る 二四五八
- 同 十一年近藤重藏江戸に歸る。東蝦夷地を幕府の直轄とす。重藏再び蝦夷地に向ふ。高田屋嘉兵衛國後、擇捉間の安全航路を発見す。靈堂の改築成る。(露人露米商會を組織す) 二四五九
- 同 十二年君平山陵を巡拜す。工藤球卿歿す。嘉兵衛、重藏擇捉に渡る。萬胤平田家の養子となる。伊能忠敬蝦夷地の實測を命ぜらる 二四六〇

- 享和元年岡宮林藏蝦夷地に渡る。萬胤、水居宣長の門人となる。江川太郎左衛門生る。木居宣長歿す 二四六一
- 同 二年十返舎一九道中藤栗毛を著す 二四六二
- 同 三年前野良澤歿す 二四六三
- 文化元年高橋東四郎歿す。レゾノツフ長崎に来る。高野長英生る。君平江戸に移る 二四六四
- 同 二年レゾノツフ歸る 二四六五
- 同 三年露人樺太を襲ふ。近藤重藏利尻島を視察す 二四六六
- 同 四年西蝦夷地をも幕府の直轄とす。露人擇捉、樺太を襲ふ。松前廣政樺太より逃れ歸る。古川古松軒歿す。近藤重藏江戸に歸る 二四六七
- 同 五年松田傳十郎、岡宮林藏樺太を視察して岡宮海峡を発見す。英船長崎にて亂暴す。君平山陵志を著す。柴野栗山歿す 二四六八
- 同 六年岡宮林藏黒龍江下流地方を視察す 二四六九
- 同 七年英船常陸に来る。水戸家大日本史を朝廷に獻す。京極宮を桂宮と改む。藤林泰輔ハルマ和解の抜萃を出版す 二四七〇
- 同 八年稻村三伯歿す。山陽京都に上る。君平職官志を著す。ゴロアニンを捕ふ。翻譯局を設く。大槻玄澤書和解御用となる 二四七一

	同 九年松平定信樂翁と稱す。高田屋嘉兵衛鷹樞に捕へらる	二四七二
	同 十年高田屋嘉兵衛歸る。蒲生君平歿す。ゴロアニンを放免す。後櫻町上皇崩御。尾藤二洲歿す	二四七三
	同 十三年岡田寒泉歿す	二四七六
	同 十四年天皇位を仁孝天皇に譲り給ふ	二四七七
	同 年杉田玄白歿す。古賀精里歿す	
	文政元年英船浦賀に来る。水野忠邦濱松城主となる。山陽九州に遊歴す	二四七八
	同 二年阿部正弘生る	二四七九
	同 三年高野長英江戸に出づ	二四八〇
	同 四年本多利明、伊能忠敬歿す。蝦夷地を再び松前家の領地とす	二四八一
	同 五年英船浦賀に来る。塙保己一歿す	二四八二
	同 六年蜀山人歿す。田沼意正相良城主となる	二四八三
	同 七年英船常陸に来る。英船賣島に来る。高野長英シーホルドの門人となる	二四八四
	同 八年外國船撃攘の令出づ。水野忠邦大阪城代となる	二四八五
	同 九年忠邦京都所司代となる	二四八六

一一九 仁孝天皇

文政 一二
天保 一四
弘化 三

同 十年徳川治濟薨す。將軍家齊太政大臣に任ぜらる。大槻玄澤、高田屋嘉兵衛歿す。近藤重藏近江大濱に至る	二四八七
同 十二年松平定信卒す。近藤重藏歿す	二四八九
天保元年大鹽平八郎塾を開く。吉田松陰生る	二四九〇
同 二年十返舎一九歿す。我が國人クインシヤロツトに漂着す	二四九一
同 三年頼山陽歿す。諸國飢饉	二四九二
同 五年水野忠邦老中となる	二四九四
同 六年江川太郎左衛門伊豆の代官となる	二四九五
同 七年正弘阿部家を繼ぐ。最上徳内歿す	二四九六
同 八年大鹽騒動あり。米國船モリソン號浦賀に来る。家齊退隱し家慶將軍となる	二四九七
同 九年西の丸焼く。蘭人モリソンに就きて上書す	二四九八
同 十年西の丸成る。(林則徐阿片を燒棄す)	二四九九
同 年渡邊華山、高野長英罰せらる	
同 十一年光格上皇崩御。阿部正弘寺社奉行となる	二五〇〇
同 十二年家齊薨す。檢約を獎勵す。篤胤秋田に歸る。高島秋帆江戸に上る。江川太郎左衛門秋帆の門人となる。華山自殺す。八犬傳成る。林子平の罪を	

免す	二五〇一
同十三年外國船隻の令を弛む。(南京條約結ばる)	二五〇二
同十四年江川太郎左衛門鐵砲方となる。秋帆罪人と して江戸に送らる。水野忠邦免職となる。阿部正 弘老中となる。平田篤胤歿す	二五〇三
弘化元年間宮林藏歿す。水野忠邦復老中となる。和 蘭の使者來りて歐洲の形勢を上申す。(清國、米國 と通商條約を結ぶ)	二五〇四
同二年水野忠邦免職となる。長英火災に乗じて牢 屋を逃る。鳥居忠燾免職となる	二五〇五
同三年天皇崩御。孝明天皇位に即き給ふ	二五〇六
同年米船浦賀に來りて貿易を請ひしが許されず。	二五〇七
同四年蘭人西洋諸國の形勢を報ず。古賀洞庵歿す。	二五〇八
嘉永元年(米國カリフォルニアに金坑發見あり)馬 琴歿す	二五〇九
同二年英船浦賀に來る	二五〇九
同三年佐藤信淵歿す。蘭人英米の希望を告ぐ。松 陰九州を遊歴す。長英自殺す。(米國議會日本に開 國を促す決議をなす)	二五一〇
同四年松陰江戸に上る。水野忠邦卒す。大日本史 の本紀、列傳出版せらる	二五一一

孝明天皇

弘化 嘉永 安政 萬延 文久 元治 慶應

一六六一 一六一三 一三二一

同五年蘭人米國使節の來朝を豫告す。ヘルリ本國
を發す

嘉永六年二月ヘルリ澳門に來り、四月琉球に來り、
更に小笠原を視察す。六月三日ヘルリ浦賀に來る。
同月九日久里濱に上陸す。同月十二日ヘルリ退帆
す。同月十三日米艦渡來を朝廷に奏す。同月二十
二日品川砲臺築造の議を決す。將軍家慶薨す(七
月二十二日其の喪を發す)。七月一日諸大名の意見
を問ふ。同月ブーチャチン長崎に來る。同月二十
一日品川砲臺工事に着手す。八月秋帆歿す。九
月十五日大船製造の禁を解く。憲定將軍に任ぜら
る

安政元年正月八日ブーチャチン去る。同月十六日ハ
ルリ本牧沖に來る。三月三日日米和親條約に調印
す。同月二十一日米艦下田に入る。同月二十八日吉
田松陰、金子重輔入牢。四月十三日ヘルリ函館に
向ひ五月十二日下田に歸る。同月二十二日附屬條
約に調印す。六月四日ヘルリ下田を出帆す(十二
月五日紐育に着す)。同七月十五日英艦長崎に來る。
八月二十三日日英和親條約に調印す。九月十八日
ブーチャチン大阪に來り、十月十五日下田に入港

す。十一月四日下田地方に大軍あり。十二月一日 ザアナ號沈没す。同月二十一日日露和親條約成る。 此年皇居焼く。	二五二四
同 二年江川太郎左衛門歿す。金子重輔入牢中に病 死す。講武所を設く。十二月二十三日日露和親條 約に調印す。	二五二五
同 三年京都の皇居成る。松陰兵學教授を許さる。	二五二六
同 四年阿部正弘卒す	二五二七
同 六年吉田松陰死刑に處せらる	二五二九
萬延元年近藤重藏の罪を免す	二五二〇
文久二年暴動交代法を弛む	二五二二
慶應二年高島秋帆歿す。天皇崩御	二五二六

不許複製

大正九年五月一日印刷
大正九年五月十五日發行

定價金壹圓五拾錢

編者 北垣恭次郎

東京市小石川區大塚仲町
四十一番地ハノ十一號



國史美談

下卷

發行者 增田義一 東京市京橋區南紺屋町十二番地	印刷者 笠間音次 東京市芝區愛宕町三丁目二番地	發行所 實業之日本社 東京市京橋區南紺屋町十二番地 電話號碼八七四、八七五、八七六、九八九 郵便口番東京三二二六番
-------------------------------	-------------------------------	---

東洋印刷株式會社印行

□ <small>縮</small> 修	養	六十	農法學博士	新渡戸	稻造先生著	定價一圓廿錢
□ <small>縮</small> 世	道	三十	農法學博士	新渡戸	稻造先生著	定價一圓廿錢
□自	警	十	農法學博士	新渡戸	稻造先生著	定價二圓十二錢
□一	言	四十	農法學博士	新渡戸	稻造先生著	定價四圓十錢
□ <small>縮</small> 青	養	七十	實業之日本社長	増田義一	先生著	定價一圓五十錢
□奮	主	八	男爵	森村市左衛門	翁著	定價一圓廿錢
□意	志	七	男爵	安田善次郎	翁著	定價六圓四十五錢
□努	力	六	男爵	大倉喜八郎	翁著	定價一圓八錢

□生	活	戰	術	八	法學博士	浮田和民先生著	定價一圓五十錢				
□碧	嚴	錄	講	和	下上	再版	高津柏樹老師講	定價各十二圓五十錢			
□鍊	膽	術	第三	永平寺管長	日置默禪	仙師述	定價六圓四十五錢				
□祖	國	を	顧	み	て	十二	法學博士	河上肇先生著	定價一圓廿錢		
□易	の	原	理	と	其	應	用	五	法學士	細貝正邦先生著	定價一圓廿錢
□校	歌	ロ	ー	マ	ン	ス	十	版	出口競先生著	定價七圓六十五錢	
□野	球	ロ	ー	マ	ン	ス	三	版	小泉葵南先生著	定價九圓六錢	
□桂	月	學	生	文	範	下上	再版	大町桂月先生著	定價各八錢		

□ 編輯 社會と自分 第二版 故 夏目漱石先生著 定價一圓五十錢 郵稅八錢

□ 海 へ 七版 島崎藤村先生著 定價一圓卅地 郵稅八錢

□ 長篇 鐘 卷上 四版 小杉天外先生著 定價二圓五十錢 郵稅十二錢

□ 家庭 銀 下上 九版 小杉天外先生著 定價各一圓五十錢 郵稅各八錢

□ 俳句とはどんなものか 廿版 高濱虛子先生著 定價六圓十錢 郵稅四錢

□ 俳句の作りやう 廿版 高濱虛子先生著 定價六圓五十錢 郵稅四錢

□ 俳句と自分 三版 高濱虛子先生著 定價四圓十錢 郵稅四錢

□ 國史 美談 五版 高師助教授 北垣恭次郎先生著 上、中各一圓十錢 郵稅各六錢

□ 名士 青年勉強法 再版 實業之日本社編 定價一圓卅五錢 郵稅十八錢

□ 訂正 優等學生勉強法 第十版 實業之日本社編 定價四圓十錢 郵稅四錢

□ 各種 無學資立身法 三版 實業之日本社編 定價一圓十錢 郵稅八錢

□ 英語熟達法 ノート 三十版 實業之日本社編 定價六圓五十錢 郵稅四錢

□ 英語上達法百話 三版 第一高等學校教授 畔柳都太郎先生著 定價六圓五十錢 郵稅六錢

□ 時事 活きた英語獨習 四版 長谷川康先生著 定價一圓五十錢 郵稅八錢

□ 英語和辭典 三版 新渡戸、坪内 和田垣三博士監修 定價四圓五十錢 郵稅十八錢

□ 常識 知らぬと耻 第十版 樋口麗陽先生著 定價六圓十錢 郵稅六錢

□改訂新しい言葉の字引 第三版 前早大講師 服部嘉香先生著 郵定税價六一錢圓
 □笑ひながら正式の算術 第二版 中村八郎先生著 郵定税價六十五錢
 □笑ひながら中等算術 第五版 中村八郎先生著 郵定税價各冊九十錢
 □實能書 第十版 西脇吳石先生著 郵定税價七十錢
 □文範書 翰文大全 第五版 關根正直先生著 郵定税價一圓八十錢
 □増進資 金運用論 卅版 與相李太耶先生著 郵定税價九十錢
 □簡易生活の實例 再版 西村文則先生著 郵定税價九十錢
 □經濟記事の讀み方 第三十版 法學士 細貝正邦先生著 郵定税價六一錢圓

□滑稽集 ビツクリ函 四版 小學男生主筆 松山思水先生著 郵定税價七十錢
 □口語白 桔梗の花 新刊 星野水裏先生著 郵定税價六一錢圓
 □お伽夜話 第十一版 少女の友主筆 岩下小葉先生著 郵定税價八十錢
 □第二お伽夜話 四版 少女の友主筆 岩下小葉先生著 郵定税價七十五錢
 □少女對話集 ベルの音 四版 澁澤青花先生著 郵定税價八十錢
 □繪入小唄集 どんたたく 第二十四版 竹久夢二先生著 郵定税價七十錢
 □繪入お伽集 青い船 再版 竹久夢二先生著 郵定税價六一錢圓
 □おさらひまの仕方 第三十二版 東京兩高等師範 學校教官十六名 共著 郵定税價七十五錢

376
188

終

